

「論語」の教えから、生き方を学ぼう

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。お陰様で、この放送も今日で33年目に入ります。つたない話ですが、CRT 栃木放送様のお陰で、30年以上にわたり放送を重ねることができました。今でも覚えていますが、最初は足利市にあった支局で生番組として毎週土曜日にやらせていただいていたいました。当時から、また、その後から放送を聴いてくださっている皆様に、心から感謝申し上げます。今後もよろしくお願いたします。
2. さて、明日3月3日には、CRT 栃木放送さんが主催なさっている「大鍋まつり」が、宇都宮市のロマンチック村で開かれます。これは、「下野の国から元気を」というテーマで開催されるもので、素晴らしいイベントです。ほかにも、各地各地でイベントがたくさんあります。皆さんも、地元の文化を大切にという気持ちで、このようなイベントにぜひ参加していただければと思います。
3. 私は先日、茨城県桜川市の真壁というところで行われている「真壁のひなまつり」を見してきました。この街には、開倫塾の教室もあります。このひなまつりは、2月4日から3月3日まで、町中のお店や個人の家にあるひな人形を皆さんが見えるところに飾り、そぞろ歩きで見学してもらうという町を挙げてのお祭りです。このような形で、いろいろなところが特色を出しながら街づくりをやっていただけると、ありがたいなあ・本当に素晴らしいなあと思います。
4. ところで、「開倫塾の時間」は、勉強の仕方について考える番組ですので、そのお話を少しさせていただきます。勉強の仕方を学ぶには、やはり孔子の教えがまとめられている「論語」が有名です。論語の中に、「子曰、知之者、不如好之者。好之者、不如樂之者。(子曰く、之れを知る者は、之れを好む者に如かず。之れを好む者は、之れを樂しむ者に如かず。)」ということばがあります。「之れ」とは、〈学問、道〉のことです。「好む」とは、〈好きになる、愛好する〉ということですので、全体の意味は「孔子が言いました。あるものごとについて、それを単に知っている者は、それを愛好する者には及ばないのです。しかし、それ

を愛好する者だって、そのものごとについて楽しむ者には及ばないのです。」となります。

5. 孔子はこのことばによって、学問を知る人は多いけれども、学問を好む人は至って少ない。学問を楽しむ人となると、めったにいないと嘆いているのだとも言われています。やはり、学問(勉強の内容)を知っていることと、学問が好きだということと、学問を楽しむということはちょっと違うのですね。ですから、ただ知っているだけではなく、好きになったり楽しんだりできるようになることが大事だということを、論語のこのことばは教えてくれているのではないかと思います。
6. ただ、勉強の内容を知らないというのでは話になりません。まずは勉強の内容をよく知り、そのあとで好きになり、最後は楽しむことが大事です。これは、勉強だけではありません。例えば、弓道・柔道・剣道などの武道やドッジボール・バスケットなどのスポーツでも、まずは内容をよく知り、そのあとは好きになり、最後は楽しむことができると、よい生き方になるのではないかと思います。
7. 人生も同じです。まずは人が生きるとはどんなことかをよく知り、そのあとで「生きていることは素晴らしいことだなあ」と生きていることを好きになり、最後に生きていることを楽しむのが大事です。生きること自体を知らないと、生きることが嫌になって絶望的になることもあります。ですから、まず人生を生きるということについて知り、そのあと自分自身の生き方、人生を好きになり、最後はそれを楽しむ。そのようなことができる人は、おそらく幸せだと思います。
8. では、何が幸せなのでしょう。お金は少しあったほうがいいですが、すごいお金持ちにならなくてはいけないということはないと思います。生活できるだけのお金は必要ですが、必ずしも富がたくさんあることが一番ではない。それよりも、人生を楽しめるような人間になりたいものだということを、この孔子のことばは教えてくれていると思うのです。
9. 今日は、孔子の教えが論語に書いてありますので、その中の「之れを知る者は、之れを好む者に如かず。之れを好む者は、之れを楽しむ者に如かず」ということばを紹介させていただきました。やはり、学問とか道とか人生とかは、知るだけでは、これを愛好することには及ばないし、愛好することまででは、これを楽しむことには及ばないということですね。ですから、皆様もぜひ、人生をよく知り、人生を好きになり、最後には生きていることを楽しんでいただきたいと思います。